

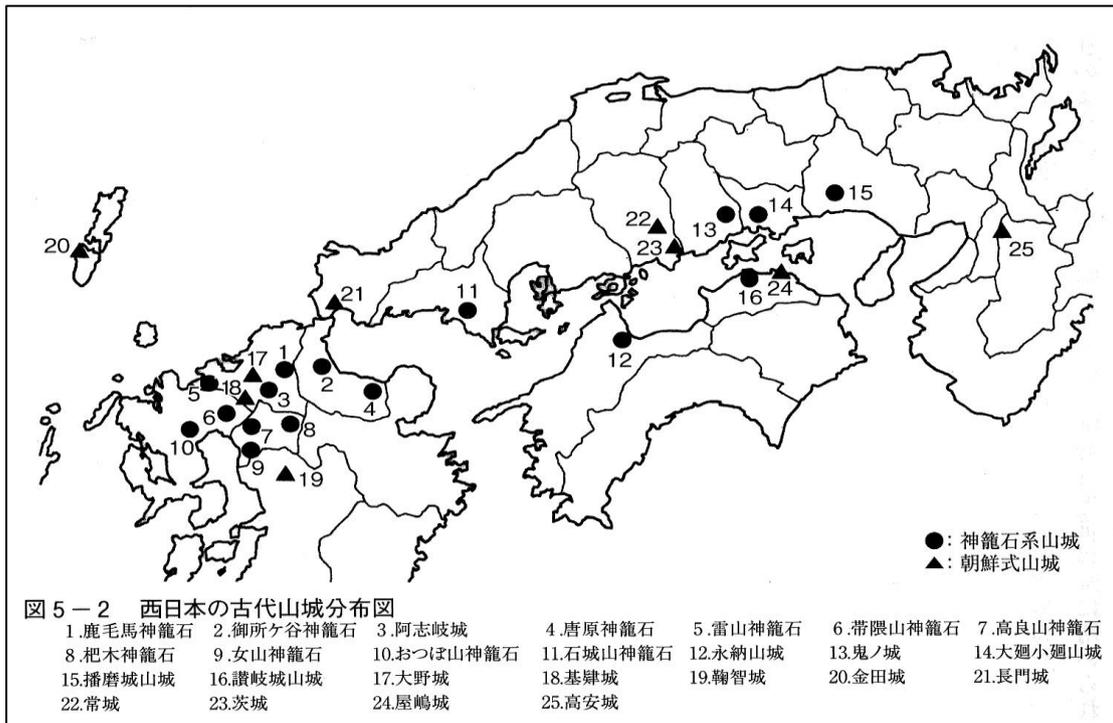
かけのうまこうごいし 鹿毛馬神籠石

国指定史跡

神籠石とは

鹿毛馬神籠石は7世紀頃の築造と考えられています。神籠石とは古代の文献に記録がない、丘陵斜面に2～4 kmにわたり切石をめぐらせた古代の遺跡です。北部九州から瀬戸内海沿岸に16箇所が確認されています。神籠石の性格について霊域説と山城説との論争が展開されましたが、発掘調査などから山城説が確定的となりました。

一方、朝鮮式山城（大野城や^{きい}基肆城など）は文献に記録が残されています。



神籠石の由来

本来、高良大社の参道脇にある「馬蹄石」を『神籠石』と呼んでいました。ちなみに、「列石」を『八葉の石畳』と呼んでいました。江戸時代中期になると「列石」を『神籠石』と混同して呼ぶようになります。そして明治31年（1898）、高良山にある列石を有する遺跡を「神籠石」として学会で紹介するようになります。

鹿毛馬神籠石のこれまでの経緯

昭和 10 年代には地元による列石の掘り起こしが行われ、約 2km にわたる列石が一部を除きほぼ完全な状態で残っていることが判明しました。昭和 13 年(1938) 5 月には「鹿毛馬神籠石指定地求積三叉図(600 分の 1)」が作成され、昭和 14 年(1939) 頃、水門部分等の掘り出しも行われ、昭和 20 年(1945) 2 月に列石を中心に約 34,302 m²が国の史跡に指定されました。

平成 14 年(2002) 3 月に周囲を含む山全体を史跡の範囲とするために追加指定を受け、総面積が 358,238 m²となり、公有地化事業を進め、平成 31 年(2019) には史跡地全体の公有地化が完了しました。今後、鹿毛馬神籠石の具体的な保存・活用の実施が期待されています。

| | |
|-----------------|-----------------------------|
| 昭和 10 年(1935) | 地元による列石の掘り起こし |
| 昭和 13 年(1938) | 鹿毛馬神籠石指定地求積三叉図(600 分の 1) 作成 |
| 昭和 14 年(1939) 頃 | 水門部分等の掘り出し |
| 昭和 20 年(1945) | 国史跡指定(列石線の両側 5 間合計 10 間の幅) |
| 昭和 28 年(1953) | 水門調査 豪雨により列石線が 3 ヶ所崩壊 |
| 昭和 42 年(1967) | 鹿毛馬神籠石環境整備計画策定 |
| 昭和 58 年(1983) | 保存管理計画策定 |
| 昭和 58 年(1983) | 水門部及び列石未確認部分の確認調査 |
| 昭和 59 年(1984) | |
| 平成 6 年(1994) | 発掘調査 |
| 平成 9 年(1997) | |
| 平成 11 年(1999) | 保存整備基本計画策定 |
| 平成 13 年(2001) | 保存整備基本設計策定 |
| 平成 14 年(2002) | 国史跡追加指定(列石線を含む山全体) |
| 平成 15 年(2003) | 豪雨による被災 |
| 平成 18 年(2006) | 市町合併(飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・穎田町) |
| 平成 21 年(2009) | 九州北部豪雨による被災 |
| 平成 22 年(2010) | 豪雨により 4 ヶ所被災 |
| 平成 31 年(2019) | 指定区域内公有地化完了予定 |
| 令和元年(2019) | 短期整備分の設計業務 |
| 令和 2 年(2020) | 短期整備工事 鹿毛馬神籠石関連展示 |



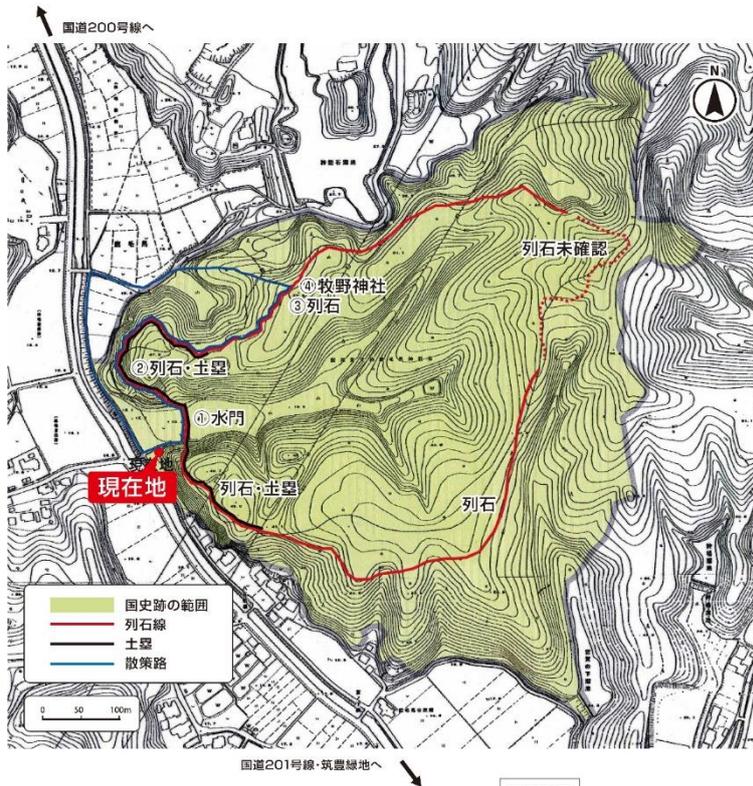
全景
(西上空から東側を望む。中央の谷に水門があります)



推定復元図



① 水門(第1暗渠)
※暗渠…地中につくった排水路



② 列石(花崗岩製)・土塁



③ 列石
土塁はなく列石(②)に比べ大きい石を並べています



④ 牧野神社
現在は近くの蔵島神社に相殿があります



飯塚市歴史資料館では鹿毛馬神籠石関係の資料を紹介しています。

すいもん 水門

水門は西側の谷部分に位置します。

谷口を長さ約60m、幅9mの土塁で塞ぎ、土塁の下には排水のための暗渠(地中に作った排水路)が2か所築かれています。暗渠はどちらも全長約18mを測り、谷に集まった水を取り入れる取水口、水を土塁外へ排出する排水口が設置されています。土塁の両側面下部には前面列石と背後列石(谷側)が並んでおり、その間は黒い粘土質の土と真砂土をかたくつきかためた版築工法で土塁が造られています。現在、第1暗渠の取水口と排水口を見学することができます。第2暗渠は埋め戻して保存しています。



第2暗渠排水口



水門全景

飯塚市歴史資料館では鹿毛馬神籠石関係の資料を紹介しています。



あん きょ

第1暗渠

第1暗渠は昭和14年に位置が判明し、昭和19・28年に排水口の発掘調査を実施し、昭和58年には取水口を確認しました。第2暗渠は昭和58年に排水口、平成7年に取水口を確認しました。

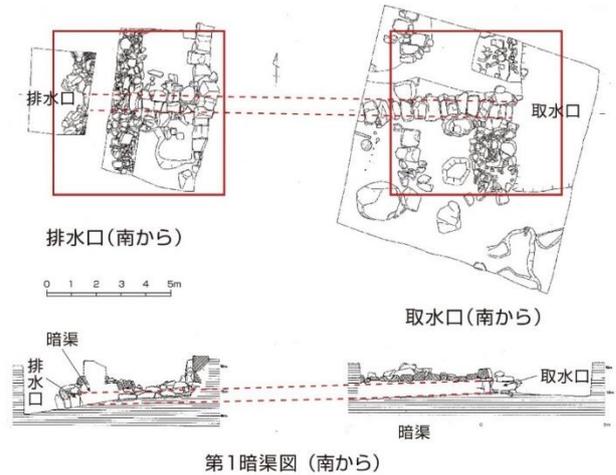
第1暗渠は全長約18m、幅0.7~0.8mで取水口と排水口には約0.7mの高低差があります。取水口と排水口の周囲には多くの小石が積まれています。排水口から先は湿地に自然に排水していたと考えられます。



第1暗渠全景（南から）



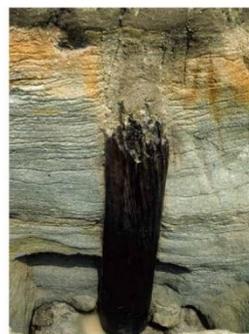
第1暗渠排水口（西から）



ど りい

土塁構築方法

水門のある土塁の列石前面において土塁を築造する際に支柱として使用されたと考えられる直径30cmの柱と版築の堰板^{せきいた}として使用されたと考えられる長さ395cm、幅25cm、厚さ1.5cmの板材も確認されています。また、柱は土塁中からも検出されており、この柱は列石前柱と組み合わせ、さらに板材（堰板）を使用し、列石を基礎に据えた土塁を築いたと考えられます。この土塁中の柱は約3m間隔で検出されており、土塁上まで出て柵として機能していた可能性も考えられます。



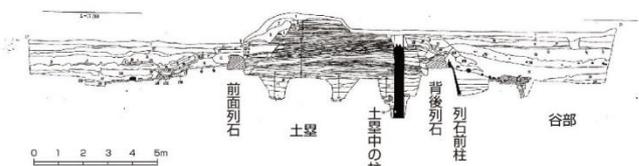
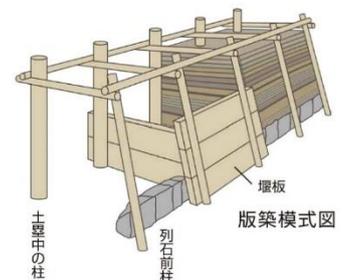
土塁中の柱



土塁土層



列石前柱と堰板



土塁土層図

文献上の記録

鹿毛馬神籠石の記録としては、貝原益軒著『筑前国続風土記』のなかで「小堤山・古家山とて、いにしへ馬牧有りし所なり。四方に石垣を築廻せり。めぐり二十町許有り。この牧より鹿毛の良馬出しこと有て、村の名とせしにや」と記されています。

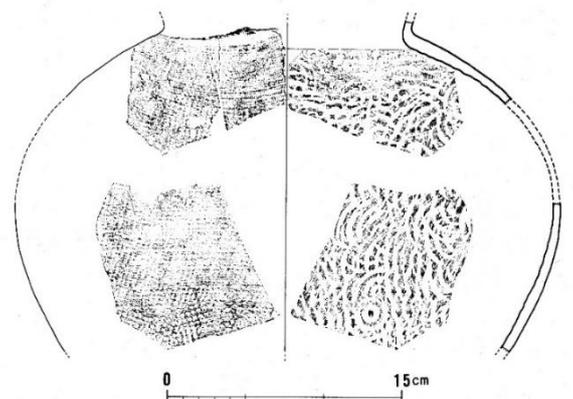
鹿毛馬神籠石が絵図として描かれた資料としては、明治31年(1898)に発行された『福岡県名所図録図絵』の「福岡縣筑前國嘉穂郡潁田村大字鹿毛馬巖島神社相殿牧野神社之図」において、当時は社殿があった牧野神社の周りに牧野石として列石が描かれています。



『福岡県名所図録図絵』より「福岡縣筑前國嘉穂郡潁田村大字鹿毛馬巖島神社相殿牧野神社之図」



第1暗渠須恵器出土状況



第1暗渠出土須恵器実測図

